

河整第 2163 号
令和 2 年 3 月 30 日

国土交通省 近畿地方整備局 河川部長 様

大阪府都市整備部長



淀川水系における更なる河川整備に関する意見照会について(回答)

令和元年 11 月 1 日付け国近整河計第23号で依頼のあった標記の意見照会について、別添意見書のとおり回答します。

なお、流域市町からの意見については、別紙のとおりです。

(別添)

淀川水系における更なる河川整備に関する意見について

淀川水系における更なる河川整備に関する意見照会に対し、担当部局である都市整備部及び各関係部局の意見は以下のとおり。

<都市整備部>

1. 治水

(1) 淀川下流部の橋梁改築

淀川大堰下流には、洪水の流下を阻害している橋梁が複数存在している。現在事業中の阪神電鉄なんば線橋梁の改築事業の推進を図ること。また、さらなる治水安全度の向上のために、伝法大橋（R43）、淀川大橋（R2）、阪急電鉄神戸線橋梁の改築についても具体化を図ること。

(2) 毛馬排水機場の更新

毛馬排水機場は、寝屋川流域の洪水時の主要な排水施設であり、また、高潮時においては、防潮水門閉鎖時の内水を排水する唯一の施設であることから、府民の安全を確保するうえで非常に重要な施設である。しかし、当該施設は完成から40年程度が経過し、根本的な対策が必要な時期となっているため、確実に操作できるよう長寿命化計画による施設更新、さらには緊急時のリスク軽減のための能力の向上を実施すること。

また、寝屋川流域は現在、河川整備の途上であり、気候変動により水災害リスクの増大が想定されるため、治水安全度の確保、向上の観点から、毛馬排水機場の運転開始水位の引き下げなど、運転ルールの弾力的な運用を検討すること。

(3) 堤防強化等

現在実施中の堤防強化に引き続き取り組むとともに、近い将来、発生する可能性が高い南海トラフ巨大地震に対し河川管理施設の治水機能が確保できるよう対策を推進すること。

また、高規格堤防は、今後の気候変動を踏まえると治水上有効ではあるが、効果発現に時間がかかること、事業費が膨大であることなどから、十分協議を行ったうえで進めること。

(4) 天ヶ瀬ダム再開発・川上ダム

現在事業実施中の天ヶ瀬ダム再開発・川上ダムは、建設に係る事業の執行に際し学識経験者により構成される第三者委員会等において引き続き厳正に監理を行い、建設費用の縮減及び早期完成に努めること。

また、川上ダムにおける既存ダムの堆砂除去のための代替補給容量について、具体的な運

用方法などの協議を行うこと。

(5)猪名川銀橋周辺狭窄部・余野川ダム

銀橋周辺狭窄部の開削については、大阪府域の治水安全度を低下させないよう、下流の河川整備の進捗状況に応じて十分調整すること。また、暫定操作中の一庫ダムについて、より効果的な施設操作となるよう検討すること。

国土交通省からの要請に基づき余野川ダム建設事業（事業休止中）と一体のものとして建設を進めてきた「水と緑の健康都市（箕面森町）」の事業は、令和元年度末から換地処分を実施することから、ダム事業地内および境界等に設置した構造物等の引継ぎについて十分調整を行うこと。

(6)淀川支川の改修等

近年の全国で発生する計画規模を超える豪雨等で、本川の水位上昇により支川における氾濫が発生している。淀川においても、本川の水位上昇による影響を検証すること。また、一級河川芥川の国管理区間において計画断面が確保できておらず、流下能力不足が生じていることから、河川整備について検討を行うこと。

(7)河川管理施設の有効活用

堤防等の河川管理施設について、洪水・高潮等による災害の発生の防止や復旧を図るため、施設の長寿命化対策、河道内樹木の伐採、河道掘削など適切な維持管理を行うこと。

また、既存ダム群やため池などの機能を最大限発揮させるため、利水容量を含めた効果的な運用などについて、検討を行うこと。

2. 防災・危機管理

(1)大規模氾濫を想定した広域的な避難体制検討の取り組み

淀川では、想定最大規模の降雨による激甚な災害に見舞われると、浸水域の居住人口が膨大であり、浸水継続時間が長期であることから、大規模・広域的な避難が想定される。洪水氾濫の被害を軽減するため、国が主体となって、府市町をはじめ防災関係機関と連携して『大規模・広域避難』の取り組みを、推進すること。

(2)直轄河川の多機関連携タイムライン策定の取り組み

大阪府では、府民の命を守り、被害を最小化することを目的として、災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」を整理したタイムライン防災を進めており、実運用において、早い段階での防災体制の構築や避難情報を発令といった効果があった。甚大な浸水被害が想定される直轄河川においても、府民の安全・安心を確保するため、多機関連携タイムライン策定の取り組みを推進すること。

(3) 要配慮者利用施設の避難確保計画作成への積極的な支援

要配慮者利用施設の管理者等に対し、府と連携し、避難確保計画作成に向け積極的な支援を実施すること。

3. 河川環境

(1) 河川の水質保全対策

大阪府が管理する一級河川寝屋川の水質保全のため、水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）に基づき、淀川から寝屋川への導水を引き続き実施すること。

4. 河川の利活用

(1) 広域的なサイクリングロード形成に向けた取組の推進

淀川水系を軸とした広域的なネットワーク形成のため、大阪府から京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県までつながる自転車がより安全で快適に通行できる環境整備を推進すること。

5. その他

(1) 整備スケジュール等

事業の実施にあたっては、大阪府域への浸水リスクを増加させないように、また、大阪府財政に過度な負担とならないよう、整備スケジュールについて十分協議調整を図ること。

(2) 地方実施の大規模事業に対する予算措置等

頻発する豪雨災害や、台風による高潮被害に備えるため、地下河川、流域調節池、三大水門など大規模治水施設を含む事前防災対策への十分な財源措置を講じること。

とりわけ、地下河川は短期集中的に整備する必要があるため、事業進捗に応じた必要な財源措置を講じること。

<府民文化部>

1. 河川の利活用

歴史と文化に培われた水都大阪を次世代へとつなぐため、公民連携による、これまでの様々な取組の結果、舟運利用者は **100** 万人を超えるまでに至った。また今後の **2025** 年の大阪・関西万博の開催や **IR** の誘致が予定されていることから、インバウンドの増加が見込まれており、インバウンドの取り込み策が必要かつ重要となってくる。

そのため大阪府では、水の回廊を中心とした水辺の拠点整備など、舟運の更なる活性化に向けた様々な取組を進める予定であるが、国としても事業の推進にあたり以下を進めること。

- 水の回廊から淀川への拡がりに向けて、淀川舟運の活性化の推進。特に、毛馬閘門については夜間の航行時間延長やライトアップなどの魅力向上について検討。
- 併せて、淀川と水の回廊との連携・連続性に向けて、淀川大堰閘門や新たな船着場の整備の推進。
- 舟運の活性化（乗船者数の増加）には、魅力的なクルーズの造成などが必要なことから、府管理河川においても、船着場や係留施設などのハード整備などを進めているが、財源が限定的。そのため、必要な事業費について、国庫補助の導入などの予算措置を実施。
- 船着場やライトアップ用の設備などについての維持管理費・更新費の確保が大きな課題となっており、既に更新時期を超え、照明等が消えているものが存在。今後、万博等の開催に向けて、ナイトクルーズなどにはライトアップの継続が必須であることから、リニューアル等に必要な事業費について、国庫補助の導入などの予算措置の創設。

<住宅まちづくり部>

1. 河川の利活用

今後の淀川河川整備にあたって、河川空間の活用や舟運を活用した地域の賑わいの創出が重要であり、以下の取り組みを推進すること。

- 新大阪駅周辺地域における都市部と淀川の自然の融合した国際都市のゲートウェイにふさわしい空間形成
- 淀川を軸とした多様な民間団体等によるネットワーク形成を通じた自然・歴史・文化の再発見と活性化による魅力と活力のある地域づくり
- 水辺の賑わいの創出のため、利用者の意向を踏まえた河川公園の整備や自然環境の保全・再生
- 自然環境の維持・保全、歴史・文化等の特徴を活かした景観魅力の向上、景観を楽しむことのできる活動・にぎわいの創出等、淀川の魅力ある景観づくり
- 舟運活性化に向けた航路の充実や安全確保、民間事業者等による船着場や河川敷の利用促進

<危機管理室>

1. 防災・危機管理

淀川では、想定最大規模の降雨による激甚な災害に見舞われると、浸水域の居住人口が膨大であり、浸水継続時間が長期であることから、大規模・広域的な避難が想定される。洪水氾濫の被害を軽減するため、国が主体となって、府市町をはじめ防災関係機関と連携して『大規模・広域避難』の取り組みを、推進すること。

(別紙)

淀川水系における更なる河川整備に関する流域市町の意見は以下のとおり。

大阪市	<p><治水・防災等></p> <p>【高規格堤防について】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 淀川本川における河川氾濫リスク軽減のための、まちづくりと一体となった高規格堤防（兩岸）や堤防強化の着実な整備を行っていただきたい。○ 高規格堤防計画区間の事業実施について、区間内の道路事業等の実施時期にも影響を与えるため、実施有無を含め、計画の明確化を行っていただきたい。 <p>【その他の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 淀川に近接する区役所が策定する地域防災計画の中で、南海トラフ地震による津波発生時の避難対策として、津波避難ビルを指定するとともに、ハザードマップを作成する等の計画を策定しており、河川の治水対策については、区民の安心・安全を考える上で、最重要事項である。そこで、中・上流部の河川整備に加えて、下流域特有の南海トラフへの対応施策等とも連携を図りつつ、洪水対策を進めていただきたい。 [参考] 淀川区地域防災計画○ 淀川の治水安全度を高めるためにも、実施頻度を高めるなど効果的に河道内浚渫を実施していただきたい。○ H.W.L に加算する余裕高さの値が幅広であるため、周辺のまちづくりに資するよう、堤防に隣接する堤内の土地の地盤高さや、その他の地形状況等に応じて、整理の上、余裕高さの値について柔軟に対応していただきたい。○ 現在、高水敷には多種多様な樹木（高木含む）が雑多に育成しており、その影響により洪水時の危険性が増しているほか、外来種等が繁殖し、自然環境の適切な保全にも影響を与えているため、樹木等の適切な維持管理を実施していただきたい。 <p><環境整備></p> <p>【河川空間を活用した賑わいづくり】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 淀川の河川空間はまち側にとって治水安全に資する必要不可欠な空間であるとともに、親水空間として都市の空間としても貴重な空間である。そのため、淀川の河川空間を活用し、賑わいを出していくことは重要である。なお、空間づくりにおいては、民間活力が必要なため、実現に向けた検討を本市とともに進めていただきたい。 特に、大阪市では、将来、リニア中央新幹線や北陸新幹線などの開業が期待・予定されている新大阪駅において、平成 30 年 8 月に新大阪駅周辺地域（十三駅・新大阪駅・淡路駅を含む地域）が都市再生緊急整備地域の候補となる地域として内閣府より公表されたことを受けて、国（内閣府、近畿地方整備局、近畿運輸局）や経済界（関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会）、地方公共団体（大阪府、大阪市）、民間事業者等（JR西日本、阪急電鉄、OSAKA METRO、UR都市機構）とともに、『新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会』※を立上げ、検討を進めてき
-----	---

大阪市

ており、都市空間機能を考える上で、「近接する淀川の自然を最大限に活かす」方向で議論が進められていることから、本事項についても注視していただきたい。

[※参考]

第1回 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会 (H31.1.22)

第2回 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会 (R1.9.26)

本協議会において、今年度末には、2020年から30年先を見据えた新たなまちづくりのコンセプトである「まちづくり方針の骨格」をとりまとめる予定である。その「まちづくり方針の骨格（現時点では、素案の段階）」において、特に淀川の河川空間の活用（整備）に関するものを次のとおり記載している。

[参考：まちづくり方針の骨格より抜粋]

(1) スーパー・メガリージョンの西の拠点（交流促進機能）

《観光・文化・エンタテインメント》

(導入機能の例)

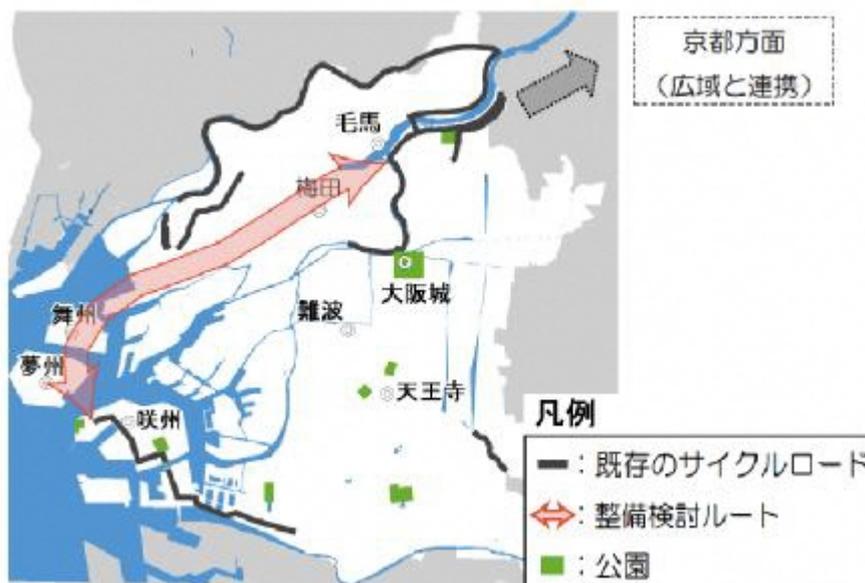
Ⅰ 水都大阪らしい淀川を活用した舟運・レジャー施設 など

【サイクルロードの整備】

○ 本市では、従来から自転車走行環境対策や駐輪対策などの安全対策に取り組んできたが、近年の自転車ニーズの拡がりや、自転車活用推進法の施行を受け、環境や健康、観光などの新たな観点から自転車の更なる活用が求められている。

そのため、自転車の通行環境に関して、大阪市自転車活用推進計画に基づき、広域につながる安全で快適な自転車通行環境として、淀川左岸サイクルロードの整備を検討していただきたい。

淀川左岸サイクルロード（イメージ）



<p>大阪市</p>	<p><利水・利用></p> <p>【利水容量の暫定的活用に向けた堰堤維持事業の拡充】</p> <p>○ 国土交通省では、平成 31（令和元）年度予算要求において、河川改修が進捗するまでの期間において、上流部の治水安全度を向上させるため、ダムの利水容量を洪水調整等に暫定的に活用できる制度を検討しているとのことであるが、淀川水系においても同制度の活用を検討していただきたい。</p> <p>【既存施設における水資源の有効活用】</p> <p>○ 淀川水系では毎年数十件の水源水質事故が発生している。平成 24 年 5 月に利根川水系で発生したヘキサメチレンテトラミン流出事故のように、大規模な化学物質流出を伴う水源水質事故が発生時には、浄水処理における原水としてだけでなく、水環境にも大きな影響を与える。</p> <p>このような大規模な水源水質事故の際に、既存施設からの放流による河川水の希釈等、水環境への影響を最小限にできるよう、その活用方法を河川整備基本計画で明確化していただきたい。</p> <p>【その他】</p> <p>○ 長大な延長を有する淀川の様々な河川特性を勘案し、その特性に応じた区間毎の出水期間及び規制内容について、柔軟に対応していただきたい。</p>
<p>豊中市</p>	<p>【堤防の強化について】</p> <p>○ 壊れにくい堤防を構築するために、法面における浸食等に弱い部分を強固なものとし、一層の安全が確保されるよう努められたい。</p> <p>○ 堤体の欠損部分となっている阪急電鉄神戸線の橋梁を改築され、堤体を強固で連続した構造物とされることで、洪水の流下能力が上がり治水に対する安全度を高められたい。</p> <p>【流下能力の確保について】</p> <p>○ 河床における樹木の繁栄・放置、土砂等の堆積等に対して、速やかなる流水断面の機能確保するための維持管理を継続されたい。</p> <p>【水害対策の推進について】</p> <p>○ 最近の気象の変化に伴い河川の氾濫等が頻発しているので、尼崎市東園田町で進められている浸水に対する防災拠点の整備を前倒しで整備されるよう努められたい。</p>

豊中市	<p>【河川敷の活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨今の健康志向等に鑑み、道路施設を使った既存の散策路及び自転車道（サイクリングロード）では連続性・安全性・爽快感・開放感・自然感がないため、これらの感覚等を感じとることができる河川敷の高排水敷・天端を活用した散策路及び自転車道（サイクリングロード）の整備を進め市民の健康増進の一翼を担い、市民の身近な自然環境を満喫できる河川となるようされたい。
池田市	<p>【一庫ダムの運用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一庫ダムについて、平成30年7月豪雨の際、運用開始後、初となる非常洪水時防災操作（ただし書き操作）を実施されたこと等を受け、ダムからの放流量を 150 m³/s から 200 m³/s への変更をされたところであるが、近年の異常気象では更なる降水も予想されることから、放流量の増量を検討するとともに、事前放流の必要性についても検討を進めてもらいたい。 <p>【余野川上流のダムの必要性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 猪名川上流域について、一庫ダムの流域面積は 115 km² であり、猪名川小戸地点での流域 310 km² に対して 40% 弱となっている。近年の異常気象による更なる降水が予想されることから、余野川上流のダムについて必要性を検討してもらいたい。 <p>【猪名川の堤防について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水害リスクを軽減させるため、池田市域の猪名川堤防について、緩傾斜堤防や特殊堤防等の更なる強化を検討してもらいたい。 <p>【浚渫について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本市管理の準用河川（江原川）や市内の遊水池等について、維持管理として毎年、土砂浚渫等を実施しているが、近年、浚渫量が増加傾向にあることと、経常的な支出が負担となっていることから、スケールメリットを活かせるような広域的な発注制度等の構築を検討してもらいたい。 <p>【河川環境の整備について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 河川敷の有効利用については、河川敷地占用許可準則の一部改正により河川空間のオープン化が活用されてきておりますが、更なる地域活性や地域ニーズに応じた有効利用を進めるためにも柔軟な制度運用や制度改正を進めてもらいたい。 <p>【河川整備工事の現場見学等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本市では、近年、河川は維持管理のみを実施しており、整備工事等に携わる機会がなく、職員の河川整備に関する知識が向上されないことから、国・府管理河川の整備工事に関する現場見学などを開催し、技術力や知識向上に繋げさせてもらいたい。

吹田市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吹田市は全域市街化区域であり、市民の安全・安心を確保する観点から、近年の大雨に対応する治水安全度を持った河川整備が必要である。よって、市内を流れる河川について、治水目標の早期実現に向けた財政面で支援されたい。 ○ 社会全体で水災害リスクを低減するための取り組みとして、河川監視カメラを増設されたい。
高槻市	<p><治水></p> <p>【淀川本川の水位低下に資する事業の加速】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、全国各地で施設能力を超える洪水が頻発しており、淀川本川においても危機的状況に直面する可能性が十分にある。そのような中、国におかれては、淀川水系河川整備計画に基づき、阪神なんば線淀川橋梁改築事業や天ヶ瀬ダム再開発事業、桂川の河道掘削など、着実に事業を推進されている。 引き続き、淀川流域の住民の生命・財産を守るため、大戸川ダムの整備、既存ダムの機能強化など、三川合流部の水位低下に資する事業の更なる推進に取り組まされたい。 <p>【高規格堤防の整備促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高規格堤防の整備は昭和62年より実施されているが、平成23年には、5水系（荒川、江戸川、多摩川、淀川、大和川）の5河川におけるゼロメートル地帯等の約120kmに整備区間を限定されている。しかしながら、高規格堤防の整備は、破堤による壊滅的被害を未然に防ぐ最も有効な手段であり、整備区間を限定することなく、高規格堤防の整備を推進すれば、昨今の気候変動に伴う度重なる甚大な洪水被害を防ぐ可能性が高いと考えられる。 ついては、高規格堤防の整備において、従来とは異なる制度設計や法整備など、早期にかつ強力で推進するためのスキームについて、具体的に検討されたい。さらには、河川整備計画に位置付けられた高規格堤防整備対象区間を重点整備区間に格上げし、国が主体となって整備されたい。 <p>【芥川の河川改修事業の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一級河川芥川の国管理区間（芥川大橋～城西橋）については、上流の大阪府管理区間の整備状況を踏まえ、計画断面の確保が見送られているが、当該区間の計画断面の確保に早期に取り組まされたい。 <p>【堤防強化の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨今の気候変動を踏まえ、芥川など淀川本川以外の箇所についても、更なる堤防強化を実施されたい。

高槻市

【適切な維持管理の実施】

- 河川内の土砂の堆積や立木等による流水阻害を未然に防ぐため、土砂の堆積や樹木の繁茂が著しい芥川において、適切な維持管理を実施されたい。

< 危機管理体制の強化 >

【防災ステーション、水防拠点の整備】

- 堤防の決壊を防ぐことや早期復旧を目的として、淀川沿川各所に側帯等の緊急時の盛土備蓄材を整備されている。しかし、各側帯の備蓄量は堤防破堤時の土砂量を確保できていないのが現状であり、また、水防拠点については、淀川左岸で1箇所のみとなっている。近年、全国各地で、施設能力を超える洪水が頻発しており、淀川本川においても危機的状況に直面していることから、淀川沿川の側帯等の土量確保及び水防拠点等の設置計画を検討されたい。なお、検討にあたっては、日常的に近隣住民が利用できる施設機能を備えるなど、施設の有効活用についても柔軟に検討されたい。

【広域避難の早期確立に向けた取組の推進】

- 万一、淀川が決壊すれば、淀川沿川の市町では浸水継続時間が最長で2週間以上と公表されており、沿川住民の避難先確保が重要課題となっている。淀川沿川の広域避難体制の早期確立に向け、更なる取組の推進を図られたい。

【近年の洪水傾向を踏まえたシミュレーションの実施】

- 全国各地で発生した近年の降雨傾向と洪水被害発生状況を踏まえ、淀川の支川も含めた浸水想定区域図を作成し、公表されたい。

【水防災意識社会再構築に向けた施策の継続と更なる充実】

- 「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の改定なども実施されながら、令和2年度を目途としたハード・ソフトを組み合わせた各種施策が展開されている。「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」との認識が浸透してきた中、引き続き、社会全体で洪水に備えるため、水防災意識社会再構築に向けた施策の継続と更なる充実を検討されたい。

【河川の安全利用に関する周知啓発の充実】

- 水難事故の発生により、尊い命が失われる事象が発生していることを踏まえ、河川の利用にあたって危険性が存在することなど、河川の安全な利用に向けた周知・啓発を更に充実されたい。

< 河川環境 >

【サイクリングロードの整備】

- 近年、サイクリングブームにより、多くのサイクリストが淀川河川敷の緊急河川敷道

高槻市

路等をサイクリングロードとして利用している。緊急河川敷道路を京都八幡木津自転車道と繋げることにより、大阪城から嵐山を結ぶサイクリングコースとなり、より多くのサイクリストや観光客の利用が見込まれる。淀川の **PR** や淀川に親しむ機会の提供となるため、自転車が通過しやすいバイク止めの導入や未舗装箇所の舗装など、右岸・左岸の両岸において、緊急河川敷道路等のサイクリングロードとしての整備を進められたい。

また、自転車利用者の増加により、河川公園利用者との共存が課題となっているため、緊急河川敷道路や園内道路の歩車分離など、双方の利便性を守りつつ、安全性を高める対策を講じられたい。

【地域振興拠点の整備】

- 淀川特有の貴重な自然を有する高槻市域において、自然や歴史を学べるとともに、情報発信や物産品販売、休憩施設、交流施設の機能を備えた、観光拠点となる「川の駅」の整備などを視野に検討されたい。

【河川環境の保全と再生について】

- 市内には、既に唐崎地区に12箇所のワンドが整備されているが、ワンド内外の水の出入りが悪く、在来生物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生には、環境改善の必要がある。これら貴重なワンドを活用した環境学習の実施なども見据え、近年の平常時の水位を踏まえ、ワンドの保全・再生について再検討されたい。

【淀川河川公園の整備】

- 市民の交流、自然とのふれあい、スポーツ・レクリエーションの機会の増加に向け、淀川河川公園の整備を推進し、開設区域の拡大を図られたい。

【特定外来生物・ミズヒマワリの駆除】

- 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク（芥川倶楽部）では、芥川において、ミズヒマワリの駆除を実施し、一定の効果を得ているが、国管理区間（芥川と淀川の合流点付近）については水深が深いなど、ネットワークによる駆除が困難な区間となっている。当該区間におけるミズヒマワリの駆除について、**NPO** 法人や地元住民団体の協力や連携を進めるとともに、外来種対策を積極的に実施されたい。

<淀川流域一体となった取組について>

- 平成29年10月に採択された「淀川宣言」では、淀川流域の未来に向けて、「過去の水害の歴史と教訓の伝承」や「近年の洪水を検証すると共に、上下流・左右岸バランスを考慮しつつ、効果的かつ効率的な治水施設の運用と更なるハード対策の推進」など5項目を提起している。この「淀川宣言」に基づく流域一丸となった取組を引き続き支援されたい。

高槻市	<p><気候変動の影響を加味した河川整備計画への変更></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」で提言されているように、計画規模を超える洪水発生の可能性が高まる中、現行の淀川水系河川整備計画に基づく河川改修では、防ぎきれない洪水被害の発生が危惧される。これまでの計画に基づく整備はもとより、「淀川水系河川整備促進に関する緊急提言」での淀川水系市町村からの提言も踏まえ、気候変動の影響を加味した河川整備計画へと変更し、今後の気候変動に対応した河川整備を具体化されたい。
守口市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、大規模自然災害により甚大な被害が発生しており、平成30年度につきましても7月豪雨、台風21号により、多くの尊い生命と財産が失われました。 これらのことから、より一層の治水安全度の向上を図るため、流域一帯となった効果的かつ効率的な治水対策による三川合流部の水位低下の促進を要望します。 ○ 近い将来、発生する可能性が高い南海トラフ巨大地震により、甚大な被害が危惧されていることから、淀川堤防の耐震・津波対策等の計画を行い、河川堤防の地震対策（液状化対策）、河川管理施設の地震・津波災害対応の推進、緊急時の物資輸送路にも活用できる緊急用河川敷道路の整備を要望します。 また、河川管理施設におきましても出水時にその機能を発揮し浸水防除を図ることから、点検・評価結果に基づく補修・更新等を着実に実施するよう要望します。
枚方市	<p><人と川とのつながり></p> <p>【まちと川とのアプローチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まちと川をつなぎ、日常、イベント時など多様な河川敷を活用することを目的としたアプローチの整備を要望する。 <p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 堤防道路、堤外地における街灯や照明、wifi スポットを設置することで、防犯・防災機能の強化や夜間の河川敷の利用が可能となる。また、火気を使用できる範囲を広げることなど、柔軟に活用できる環境が必要と考えられる。 ※ 支川と本川をシームレスにつなぎ、ウォークブル視点での整備も必要と考えられる。まち→支川→本川といったアクセスをより強化することで、川を身近に感じ、エリアの価値や親水性を高めることにつながると考えられる。それらを担う近未来技術の活用（自動運転、小型モビリティ、ドローンなど）を考え、まちと川のとなぎ方を今後検討していく必要があると考えられる。 <p><河川環境></p> <p>【水辺や河原の保全・再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 淀川は、多種多様な生物が生息する河川であり、生態系の保全に関し、重要な役割を果たしている。よって、今後も引き続き、生態系が保全されるよう、良好な河川環境の確保に向けた施策を進めて頂きたい。

枚方市

【河川清掃】

- 河川清掃活動の推進や、活動を通じた海洋プラスチックごみ問題・SDGs の普及啓発などについての施策を進めて頂きたい。

[備考]

- ※ 近年、世界中で使い捨てプラスチックごみによる海洋汚染が問題になっていることから、大阪府と大阪市は共同で「おおさかプラスチックごみゼロ」を宣言し、使い捨てプラスチックごみの削減に関する取り組みを推進するとともに、府内市町村にもこの取り組みの拡大を呼びかけている。
- ※ 本市においても、西部に淀川が流れているだけでなく、淀川に流れ込む船橋川、穂谷川、天野川の三河川が存在していることから、「ひらかたプラごみダイエット〜ポイ捨てゼロ」を宣言し、地域住民と連携した河川清掃活動を推進するとともに、ポイ捨てをしない・させない環境づくりを進めている。
- ※ 国連で採択された SDGs のゴール 14 には「海の豊かさを守ろう」が設定されており、地域での清掃活動など、地道な活動の推進が SDGs の達成に繋がることになる。

<治水・防災>

【治水対策】

- 淀川水系の河川整備においても、計画規模を超える豪雨対策及び気候変動を考慮した洪水リスクへの対応などを踏まえ、本川での破堤・越水、また支川等の河口部からのバックウォーター現象が起きないように、堤防機能の検証を行うなど、更なる治水対策の推進を要望する。
- 淀川水系中上流の河川改修が進んでいる中、それにより、本市域も含め淀川本川の治水安全度を低下させないため、阪神なんば線の架け替え等による流下能力増強及び上流側ダム等での洪水調整等を適切に行って頂きたい。

[備考]

- ※ 淀川水系河川整備計画策定から10年がたち、同計画で位置づけのある淀川本川の堤防強化は概ね完了している。枚方市域においては、三矢・上島地区で全てが完了する。
- ※ 近年の計画規模を超える豪雨によって、本市においても内水浸水による大きな被害が発生したことから、下水道事業において超過降雨対策の事業を推進している。
- ※ 三川合流点より上流側の宇治川、木津川、桂川など、いわゆる淀川水系中上流の河川改修が進んでいる中、その結果、下流側の淀川本川により多くの流量が流れることになる。

枚方市

【危機管理体制の構築、強化】

- 本市では、淀川水系の浸水想定区域図が刷新されたことにより、新たに木津川の浸水想定区域の中に入ることになった。こうしたことも踏まえ、避難などの情報伝達を更に徹底して頂きたい。

[備考]

※ 木津川については、本市の流れる河川ではないが、高低差から破堤後、数時間で本市に浸水が発生する。

内閣府の避難勧告等に関するガイドラインでは、当該ケースのような判断基準がないため本市では、河川の破堤が発生してからの経過時間を、避難情報の発令基準としている。

<利水>

【河川管理】

- 本市の水道水は約8割を自己水とし、その原水は淀川の磯島取水口から取水しているが、近年、取水口付近の堆積土砂の影響による取水不良が発生している。

平成29年5月、6月には一時取水できない状態となり、大阪広域水道企業団からの受水量を増大することで対応したが、市民生活に影響が出かねない事態となる。このため、取水口付近の堆積土砂について、抜本的な対策を講じるなどの、適正な管理を要望する。

<利用>

【淀川舟運】

- 2025年開催の大阪・関西万博に向け、淀川下流部と夢洲をつなぐ航路の検討を進めるとともに、大川から淀川下流部への航路確保のため、淀川大堰の閘門設置を進めて頂きたい。
- 毛馬閘門の夜間利用も踏まえ、運用時間を拡大して頂きたい。
- 淀川上流域（枚方～伏見間）の安定運航を可能にするため、上流域の掘削および岩礁の除却等を行い、安全な航路の確保を進めて頂きたい。
- 上流域の運航を可能にするため、京都伏見に船着場を常設して頂きたい。
- 枚方船着場の利用促進のため、当該船着場周辺に待合スペースを常設して頂きたい。
- 船着場の車両アクセスの改良を進めて頂きたい。
- 枚方船着場付近における船舶係留の規制を緩和して頂きたい。
- 観光における淀川舟運の安定的かつ計画的な運航のため、瀬田川洗堰の水位管理（出水）の情報を事前に地方自治体及び民間事業者と共有して頂きたい。
- 舟運のみならず、カヌー及びSUPなど水面を活用した賑わいを促進する観点から、水面利用に関わるルールの方針策定を進めて頂きたい。
- 淀川水系河川整備計画 30 ページにおいて、「しかしながら、舟運の復活への本格的な

枚方市

取り組みには今のところつながっていない。」とあるが、平成**22**年から民間事業者による単独運航として、天満橋・八軒家浜と枚方間の運航が始まり、平成**29**年**9**月からは、概ね月**1**回以上の定期運航も実施されている。また、令和元年には枚方以北の八幡市(背割堤)までの運航も行われるなど、民間事業者が主体となって、淀川舟運の復活に向けて本格的な取り組みがなされているところであるため、当該記載内容を更新されたい。

【利用環境】

- 淀川河川公園枚方地区は本市の重要な地域資源であり、公園利用だけでなく周辺の枚方宿地区等も含めた本市の観光における利便性向上のため、大型観光バスの駐車場を設けて頂きたい。
- 水路と陸路の連携として、舟運と自転車の連動が効果的に図れるようサイクリングロードの整備等を充実させて頂きたい。
- 淀川河川公園において「枚方宿みなど五六市」開催などの取り組みが進められていますが、更なる賑わい促進のため、民間事業者が公園内において日常的に営利活動を行えるよう規制緩和を進めて頂きたい。(枚方土産、お酒などを舟運乗船客に販売するなど。)
- 河川公園内に枚方船着場への案内板や道標を増設するとともに、枚方宿地区への案内板や道標も設けて頂きたい。
- 淀川水系河川整備計画では「観光」についての記載が少なく、観光は河川の「利用」という広義的な表現に包含されている。インバウンドの増加や夢洲と京都を舟運で結ぶ構想の打ち出しなど、観光の機運が関西でも高まっていることを考えると、計画における「観光」のプライオリティを上げるよう改版されたい。

【河川敷公園の早期整備】

- 本市域の淀川河川公園都市計画決定区域において、**223.20ha**のうち**48.30ha**の開設となっており、本市の都市公園の住民一人当たりの敷地面積標準**10 m²**を実現するためにも、残りの未整備エリアを早期に整備して頂きたい。
- 愛犬家を対象に淀川河川公園において、犬の散歩マナー教室やドッグラン体験コースを企画運営いただいておりますが、市民より常設したドッグランの設置要望があることから、引き続き施設等の整備について検討して頂きたい。

[備考]

※ **P-PFI**のように、収益施設の整備とともに整備・管理における民間ノウハウの活用が重要となる。治水の観点はある必要ではあるが、規制緩和による民間整備の収益施設の設置や社会実験の実施など柔軟に対応する制度、民間活力の活用が必要と考えられる。

枚方市	<p>【河川敷グラウンドの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 淀川河川敷のグラウンド等については、市民の貴重な憩いや活動の場として多様に利用されていることから、利用者や地元住民の意見を考慮して、既存施設の存続、さらに改善に向けた整備を要望する。 <p><維持管理></p> <p>【河川の管理・維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 減災・防災を始め、利水及び水辺利用等の様々な観点から、河川施設の効率的・効果的なアセット・マネジメントを実施するとともに、河道内においては樹木及び堆積土砂等の適切な維持管理を要望する。 ○ 河川区域内における景観・美観に関わる対策として、除草、耕作・工作物設置等の違法行為の是正及びホームレス対策などに努めて頂きたい。
茨木市	<p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特になし <p><要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 淀川水系河川整備計画に基づく治水事業の強力な推進を要望いたします。
八尾市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見なし
寝屋川市	<p>【阪神なんば線淀川橋梁架替事業の更なる促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、全国各地で、施設能力を超える洪水が頻発しており、淀川本川においても、危機的状况に直面する可能性が十分にある。そのような中、国におかれては、淀川水系河川整備計画に基づき、洪水の流下を阻害している阪神なんば線淀川橋梁架替事業に本格着工されたところであるが、淀川流域の住民の生命・財産を水害から守るため、更なる事業促進に取り組むよう要望します。 <div data-bbox="343 1420 1370 1800" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">阪神なんば線淀川橋梁</p>

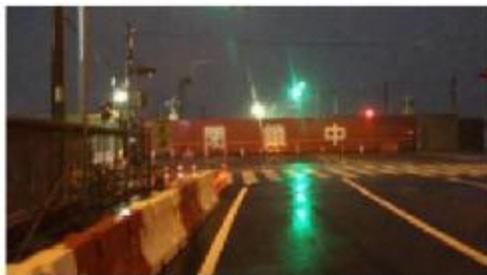
寝屋川市

【三川合流部の水位低下の促進】

- 近年、大規模自然災害により甚大な被害が発生しております。平成 30 年度につきましても 7 月豪雨、台風 21 号により、多くの尊い生命と財産が失われました。より一層の治水安全度の向上を図るため、流域一体となった効果的かつ効率的な治水対策による三川合流部の水位低下の促進を要望します。

【河川管理施設(陸閘)の地震・津波対策の推進、緊急用河川道路の整備】

- 近い将来、発生する可能性が高い南海トラフ巨大地震により、甚大な被害が危惧されることから、淀川堤防の耐震・津波対策等の計画を行い、河川堤防の地震対策（液状化対策）、河川管理施設（陸閘）の地震・津波災害対応の推進、緊急時の物資輸送路にも活用できる緊急用河川敷道路の整備を要望します。



淀川大橋右岸陸閘

【河川管理施設等の長寿命化の推進】

- 河川管理施設については、出水時にその機能を発揮し浸水防除を図ることから、点検・評価結果に基づく補修・更新等を着実に実施するよう要望します。

【淀川河川公園における自然環境の保全・再生と活用】

- 淀川河川公園点野野草地区において、「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に基づき、水辺環境の再生・ワンドの環境改善を図るための構想の実現に向け、市民活動を主体とした様々な取組が進められています。

上記プログラムに位置付けられている「点野親水空間整備事業」の実現のためにも、「淀川河川公園における自然環境の保全・再生と活用」の取組を推進するよう要望します。

【参考】

- ① 「淀川河川公園基本計画」平成 20 年 8 月
- ② 「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」平成 29 年 3 月
- ③ 「点野水辺づくりワークショップ」平成 26～30 年度に計 13 回実施
- ④ 主な市民活動「淀川まるごと体験会」「茨田イチョウまつり」など



【河川水を活用した河川・水路への環境用水の確保】

- 寝屋川流域の河川・水路では、都市化の進展等による水質の悪化や堆積土砂による悪臭などの問題に対して、国、大阪府、関係市で構成する寝屋川流域協議会で「淀川水系寝屋川流域水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」を策定し、流域の関係機関が一体となり水環境改善の取組を進めてきました。

その結果、流域内の河川では水質が大きく改善されるなどの成果が得られた一方、水路等においては、依然として水質改善が進んでいない現状も見受けられます。

寝屋川市においても、水質の向上や水量の確保が求められている水路があり、「河川水を活用した河川・水路への環境用水の確保」が図られるよう要望します。

【参考】

- ① 「淀川水系寝屋川流域水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）」平成 16 年 5 月
- ② 「寝屋川流域水環境改善計画」平成 24 年 5 月

【淀川水系の中上流部の河川整備の進捗に伴う治水安全度の向上】

- 淀川水系における中・上流部の河川整備の進捗とその影響に関する検証委員会の報告書において、中上流部の河川改修の進捗に伴い多くの流量が流れることによる、淀川本川の治水安全度の低下に加え、温暖化による降雨量および河川流量の増加が指摘されています。これら報告内容を踏まえ、計画流量の見直しも含めた抜本的な整備計画の変更の検討とあわせ、淀川本川の堤防強化や流量増加のための具体的な河川再整備や、上流部の支川におけるダム建設、既存ダムの効果的な流量調整などにより、治水安全度を向上させる対策が図られるよう要望します。

大東市	○ 意見なし
箕面市	○ 意見なし
柏原市	○ 意見なし

門真市 ○ 本市は淀川左岸治水促進期成同盟（枚方市、守口市、寝屋川市、大東市、四條畷市、門真市）に加盟しており、令和元年5月20日に淀川水系に当たる51の市町村は共同で国に緊急提言を行う「淀川水系河川整備促進大会」を開催し、整備局に提言書を提出しています。

○ 上記のことから、本市の回答は「意見なし」とします。

淀川水系市町村が淀川の治水安全度の向上を要望 更なる治水対策の推進を国に緊急提言

～淀川水系市町村が淀川水系河川整備促進大会を開催～

R1.5.20

淀川水系にある51の市町村は、昨今の気候変動に伴い、全国各地で洪水被害が頻発していることから、淀川水系全体の治水安全度をより一層向上させるため、共同で国に緊急提言を行う「淀川水系河川整備促進大会」を開催し、整備局に提言書を提出しました。

大会の概要

報道出席
 ・時事通信、日経新聞、建設系新聞者5社
 ・J-COM

○日 時：令和元年5月20日（月）12:30～13:30
 ○会 場：シティプラザ大阪
 ○主 催：淀川水系市町村（代表 高槻市）
 ○出席者：淀川水系市町村 山仲野洲市長、桂川亀岡市長、堀口八幡市長、堀和東町長、長内豊中市長、濱田高槻市長、北川寝屋川市長、高見宇陀市長、玉井大津市副市長
 ●来 賓：近畿地方整備局 黒川近畿地方整備局長、中込河川部長、大塚議員、他国会議員代理24名

主催者挨拶



住民の生命や財産を守ることは自治体の使命。参画市町村は一丸となって、淀川水系の治水事業を一層推進するため、淀川水系河川整備促進大会を開催。

来賓祝辞



水害の更なる頻発・悪化が懸念される中、一日も早く治水安全度を向上させるべく着実に治水対策を推進していく。

講演



中上流部の河川改修は大幅に進捗。上下流バランスを確保しながら、更なる治水対策の推進していく。

3市長による意見発表



ダムがあれば、上下流バランスにも寄与するが、全開解消と瀬田川の改修を行い、上流に負担をかけないように進めていただきたい。



これまで下流のために犠牲になってきた中上流の浸水被害軽減にむけて下流嵐山の整備を推進いただきたい。



平成25年洪水では内水被害が発生するものの、本津川の水位があと10cm程度上がれば排水機場の停止というギリギリの状態であった。関係機関と緊密に調整し、安全安心のまちづくりを進めて参りたい。

提言



淀川水系において、計画規模を超える洪水は、もはやいつ発生してもおかしくない状況にある。現行の河川整備計画を変更した上で必要な予算を十分に確保し、根本的な河川改修を強力に推し進めることが必要。

手交



【黒川局長】提言を重く受け止め、スピード感を持って進めて参りたい。

大会全景



淀川水系河川整備促進大会



<p>摂津市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本市は、公共下水道の雨水整備が途上にあること、安威川と淀川に挟まれた地形である為、淀川が氾濫した際には、避難する場所がないことが課題として挙げられます。対策として、本市では雨水幹線の整備を進め、また、現在、動き出している、国、大阪府、淀川沿川の自治体で構成された「三島地域広域避難計画検討WG」においては、取り組みが進められているところではありますが、国が主導し、早期に広域避難計画を策定されたい。 ○ 平成 29 年に公表となった淀川の洪水浸水想定区域図にも示されているように、本市は淀川の氾濫による被害を大きく受けますが、水防活動の拠点となる施設がないことから、災害時には災害復旧を迅速に行えるよう、また、平時には地域活性の場としても活用できるよう、摂津市域（鳥飼地区）に「河川防災ステーション」の建設を要望致します。 ○ 淀川沿川の本市においては、水防活動や地域活動の場として、本川を利用しておりますが、今後の更なる地域の活性化に向け、この限られた空間を有効利用できるよう、淀川河川公園の整備促進に加え、舟運の活性化に向けての本市域での船着場の設置、地元市町による土地利用に関する手続きや利用の柔軟な対応等要望致します。 ○ 淀川上流域で土砂災害が発生した場合、山間部から流れ込む雑木は護岸や橋脚を損傷させ、河道内の雑木は流水を阻害し、水位上昇を引き起こす原因となることから、宇治川、木津川、桂川の淀川上流部の雑木の伐採を要望いたします。
<p>東大阪市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河道内樹木の適正な管理、堆積土砂の適正な管理、施設機能の維持をお願いします。
<p>四條畷市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見なし
<p>交野市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見なし
<p>島本町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、計画降雨量を超える突発的な集中豪雨や大型台風による被害が全国的に多発している状況です。 淀川につきましても、危機的状況に直面する可能性が十分にあることから、土砂が比較的堆積しやすい三川合流地点におきましては、定期的な浚渫などにより、河道断面を確保し適切な維持管理を行っていただきますよう、お願い申し上げます。" ○ また、治水事業と並行し、淀川河川公園におきましては、広域避難地に指定されていることから、護岸整備と併せた大規模災害時における緊急避難経路の確保や舟運による広域的なアクセス整備が、重要な課題であると考えております。 ○ 併せて観光・にぎわいづくりの観点からも、他の行政区域内でも取り組まれている、船着き場やアクセス道路の整備につきまして、長期的な視点に立ち取り組んでいただきたく、お願い申し上げます。

豊能町	<ul style="list-style-type: none">○ 本町は、淀川水系の最上部にあたる余野川を有するが、軽微な護岸工事や浚渫に関しても、補助等を行ってほしい。○ 地域で、河川の保全ボランティア活動が行われているが、ソフト事業についても、柔軟な補助等を行ってほしい。
能勢町	<ul style="list-style-type: none">○ 意見なし